

新企画

最新トピック・品質経営に関する講演を  
気軽に聴講したい！  
環境を選ばず学びたい！あなたに…

Jch  
J-Channel

# J-Channel

## オンライン講演シリーズ

(2021年1月～3月開催、22講演)

### 主な講演者(一例)

レジェンド 1/22(金)



**持続的成長のためのTQM**  
～TQMの基本と本質、そして効果を改めて考える～

岩崎 日出男 氏  
近畿大学名誉教授

AI・ビッグデータ 2/5(金)



**データ駆動型時代における人と品と質のマネジメント**  
—人工知能を活かす人間知能—

椿 広計 氏  
情報・システム研究機構 理事  
統計数理研究所長

未然防止 2/18(木)



**ヒューマンエラーの発生原因と未然防止の3Hとは**

鈴木 宣二 氏 紙野 研二 氏  
NPO法人SDC検証審査協会 理事長 NPO法人SDC検証審査協会

企業ベストプラクティス 3/5(金)



**顧客価値共創のための新たなフレームワーク**  
「くらしアップデート業」への挑戦

上原 宏敏 氏  
パナソニック(株)  
品質・環境本部 本部長

※講演の詳細、他の講演リストは、中ページをご覧ください。

講演のお申込、J-Channel のラインアップはこちらから

<https://www.juse.jp/j-channel/>

一般財団法人日本科学技術連盟 J-Channel担当

電話：03-5378-9811 ✉: j-channel@juse.or.jp

日科技連 J-Channel

検索



▶J-Channelを、社員教育にご活用されたいとお考えの方に朗報です！裏面をぜひご覧ください。

協賛：一般社団法人日本品質管理学会、日本信頼性学会

# J-Channelとは

- 日科技連がニューノーマル時代対応の新価値を提供するオンライン形式の講演シリーズ
- 2020年度は、毎週金曜日(原則) 午前1講演、午後1講演。1日2講演を生配信
- 日科技連が誇る、産・学一流の講師による、質の高い講演をリーズナブルな価格でご提供

安全な環境下での学びを実現

3密を避け、安全に職場・自宅から環境を選ばず聴講できる

豊富なラインアップ

各界のレジェンドから、新講師が登場!  
生配信だからチャットで直接講師との質疑応答が可能

お手頃な参加費で質の高い講演

高クオリティな講義が、1講演1万円(税抜)で参加できる



ジャンル	No.	日時	テーマ	講師 (敬称略)	所属・役職
レジェンド	29	1月22日(金) 10:00～12:00	持続的成長のためのTQM ～TQMの基本と本質、そして効果を改めて考える～	岩崎 日出男	近畿大学名誉教授
	32	1月29日(金) 13:30～15:30	JITとFactory Physics: 体質強化と全体最適を同時に考えるIoT時代のものづくり	圓川 隆夫	職業能力開発総合大学校 校長 東京工業大学名誉教授
	47	3月26日(金) 10:00～12:00	日本のものづくり産業に求められているイノベーション	田中 千秋	イノベーションオフィス田中 代表 元 東レ(株) 代表取締役 副社長
ニューノーマル	35	2月10日(水) 10:00～12:00	ミニッツ・クリエイティング: ファシリテーターと書記のありたい姿に基づく次世代書記スキル運用が、会議の質を左右する	池田 祐一	日科技連「エグゼクティブセミナー」企画委員、講師 総合系コンサルティングファーム 経営コンサルタント
	45	3月19日(金) 10:00～12:00	日本が目指すべき社会・産業の在り方 ～Connected Industries、グローバル社会と日本の現状～	水上 潔	ロボット革命IoTイニシアティブ協議会 産業IoT推進統括
企業ベストプラクティス	39	2月26日(金) 10:00～12:00	事技職場の業務改革・働き方改革から幸福度向上 ～事技職場の自工程完結活動～	宝田 和彦	豊田鉄工(株) 前社長
	41	3月5日(金) 10:00～12:00	顧客価値共創のための新たなフレームワーク ～「くらしアップデート業」への挑戦～	上原 宏敏	パナソニック(株) 品質・環境本部 本部長
	42	3月5日(金) 13:30～15:30	トヨタの品質経営 ～トヨタが真の“モビリティカンパニー”になるために必要な「品質経営」～	佐々木 真一	トヨタ自動車(株) 元副社長
事業戦略	27	1月15日(金) 10:00～12:00	アフターコロナのビジネスモデル ～サーキュラーエコノミー型ビジネスモデル	松原 恭司郎	キュー・エム・コンサルティング 取締役社長
	46	3月19日(金) 13:30～15:30	サステナビリティ・ミックス	藤井 敏彦	多摩大学大学院 客員教授
問題解決・改善	30	1月22日(金) 13:30～15:30	創造的な問題解決の体系を理解し、創造技法の進め方を身につける	高橋 誠	(株)創造開発研究所 代表
AI・ビッグデータ	34	2月5日(金) 13:30～15:30	データ駆動型時代における人と品と質のマネジメント —人工知能を活かす人間知能—	椿 広計	情報・システム研究機構 理事 統計数理研究所長
信頼性・安全性	44	3月12日(金) 13:30～15:30	製品安全、リスクアセスメントのためのR-Map入門	松本 浩二	製品安全コンサルタント
未然防止	33	2月5日(金) 10:00～12:00	品質とヒューマンファクター	桑野 偕紀	日本ヒューマンファクター研究所 代表取締役所長
	36	2月10日(水) 13:30～15:30	「マニュアル」をナメるな! 職場のミスの本当の原因	中田 亨	中央大学 理工学研究科 客員教授
	37	2月18日(水) 10:00～12:00	ヒューマンエラーの発生原因と未然防止の3Hとは	鈴木 宣二 紙野 研二	NPO法人SDC検証審査協会 理事長 NPO法人SDC検証審査協会
ソフトウェア品質	31	1月29日(金) 10:00～12:00	AIソフトウェアの品質保証	石川 冬樹	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学系 准教授
ISO	28	1月15日(金) 13:30～15:30	はじめての内部監査 —内部監査の役割や組織への貢献、内部監査人としてのあるべき姿—	島田 裕次	東洋大学 総合情報学部 教授
	38	2月18日(水) 13:30～15:30	これならわかる!できる! 経営成果を上げるISO 9001の読み方・使い方 組織の潜在力を引き出す 認証にとらわれないISO活用論	青木 恒享	(株)テクノファ 代表取締役
経営管理技術	40	2月26日(金) 13:30～15:30	インダストリアルエンジニアリングの最前線	和田 雅弘	職業能力開発総合大学校 品質・生産管理ユニット 教授
	43	3月12日(金) 10:00～12:00	ものづくりマネジメント入門	中島 健一	早稲田大学 社会科学総合学術院 教授
	48	3月26日(金) 13:30～15:30	開発者の視点から捉えた市場分析活動の質保証とプロセス保証 ～開発者の前工程と企画者の後工程をサイマル化する考え方～	丸山 一彦	和光大学 経済経営学部 経営学科 教授

※2020年10月1日現在 ※都合により、開催日時、講演者・テーマが予告なく変更になる場合があります。

1月15日(金)

10:00～12:00

13:30～15:30

27 事業戦略

アフターコロナのビジネスモデル  
～サーキュラーエコノミー型ビジネスモデル



まつばら きょうしろう  
松原 恭司郎 氏  
キュー・エム・コンサルティング  
取締役社長

**サーキュラーエコノミー型ビジネスモデルのポイントを2時間でマスター!**  
21世紀に入り、競争優位の源泉は製品品質から、ビジネスモデルの質へと大きく変化しました。コロナ下の現在では、より良い形への復興として「グリーンリカバリー」が求められ、ビジネスモデルを革新し続ける能力の重要性が高まっています。  
1. ビジネスモデルのポイントと見える化  
2. 成功するビジネスモデルの基本パターン  
3. アフターコロナを見据えたビジネスモデル構築のポイント  
(1)SDGs(持続可能な開発目標)への対応 (2)サーキュラーエコノミー(循環経済)への対応 (3)サービス化とサブスクリプション・モデル 他  
関連書籍に『ビジネスモデル・マッピング教本』(日刊工業新聞社)、『図解ポケットSDGsがよくわかる本』(秀和システム)などがあります。

28 ISO

はじめての内部監査  
—内部監査の役割や組織への貢献、  
内部監査人としてのあるべき姿—



しまだ ゆうじ  
島田 裕次 氏  
東洋大学  
総合情報学部 教授

**内部監査で会社は必ず変わる!**  
本講演では、内部監査の基礎知識から実務での応用まで幅広く解説します。特に実務経験を活かして分かりやすく説明したいと思います。  
基礎知識としては、内部監査の目的、内部監査の特徴と内部監査に係る基準、内部監査の進め方、リスクアプローチなど内部監査人にとって必須知識を解説します。また、内部監査の種類について説明した後、業務別の監査ポイント、内部監査の品質評価についても説明します。  
さらに、ICT化の進展に伴って必須知識であるAI、IoT、ビッグデータ、RPAを対象にした監査についてもポイントを解説します。  
新任の内部監査人だけでなく、ある程度経験を積まれた方にとっても役立つ内容にしたいと思います。

1月22日(金)

10:00～12:00

13:30～15:30

29 レジェンド

持続的成長のためのTQM  
～TQMの基本と本質、そして効果を改めて考える～



いwasaki ひでお  
岩崎 日出男 氏  
近畿大学名誉教授

**レジェンドが語るTQMの本質と成功のポイント!**  
TQM(総合的品質管理)とは、それぞれの組織にとってQuality(品質)とは何かを定義し、顧客価値創造と組織能力向上を基本として企業の持続的成長を追求する経営管理活動のことです。  
この活動は、ある特定の部門や階層だけではなく経営トップから職場の第一線まで組織全員がその役割を認識し、「お客様第一」、「品質第一」の考えのもと、全員参加で実践することが基本となります。  
経済活動が非常に厳しい環境下におかれている現在、組織が持続的成長を果たしていくためにTQMの基本とその本質を正しく理解し、その効果について述べてみたいと思います。

30 問題解決・改善

創造的な問題解決の体系を理解し、  
創造技法の進め方を身につける



たかはし まこと  
高橋 誠 氏  
㈱創造開発研究所  
代表

**すべての人に役立つ創造技法!職場が変わります!**  
創造的な問題解決のためには、まず問題を自己課題とするための「問題意識」が重要です。そして次は問題解決の「手順」を考え、創造的な「思考」を進めることが求められます。具体的な解決に活用されるのが問題解決の技法です。私は創造的な問題解決の技法を、創造技法と名づけ、4種に分類しています。それらは発散技法、収束技法、統合技法、態度技法の4つです。問題解決の手順は、問題設定、問題把握、問題解決、解決行動へと進められますが、いずれのステップでも、まず発散技法が活用されます。次はそれらをまとめるための収束技法の出番です。技法の中には発散と収束の両方が含まれた技法があり、それが統合技法です。また自分の意識を創造に向けるための技法が態度技法です。本講義ではこれら創造技法の基本的な考え方と、それらをどう活用すべきかについて具体的に話したいと思います。

1月29日(金)

10:00～12:00

13:30～15:30

31 ソフトウェア品質

AIソフトウェアの品質保証



いしかわ ふゆき  
石川 冬樹 氏  
国立情報学研究所  
アーキテクチャ科学研究系 准教授

**AIソフトウェアの品質保証に関する新たな知見を学ぶ!**  
機械学習技術、特に深層学習技術の進化により、AI(人工知能)の産業応用に向けた取り組みが盛んに行われています。  
しかし機械学習を用いてシステムを構築した場合、訓練データから自動抽出したルールに従ってシステムが動作するため、品質保証に関し新たな考え方が必要になります。  
また自動運転、与信判断、医療画像診断をはじめ、人と社会の営みにより深く踏み込むシステムが実現され、例えば「公平性」など、「品質」として考えることが従来よりも大きく広がっています。  
本講演ではこの「AIソフトウェアの品質」に関する最新の話について、複数のガイドラインや最新技術を俯瞰して紹介します。

32 レジェンド

JITとFactory Physics:  
体質強化と全体最適を同時に考えるIoT時代のものづくり



えんかわ たかお  
圓川 隆夫 氏  
職業能力開発総合大学校 校長  
東京工業大学名誉教授

**IoT時代の「Factory Physics」に基づく、ものづくり経済合理性の強化!**  
第四次産業革命におけるものづくりのニューノーマルは何でしょうか。それは工業化社会で頂点を極めたJITに代表される組織的改善(体質強化)の強みの維持に、日本企業がともしれば無頓着であった、ものづくりの理論、Factory Physicsに基づくものづくりの経済合理性の強化と思われる。これはこれまで支えてきた熟練技能者の暗黙知を補完、逆に強化するだけでなく、ゴールと現状の条件での最適化を図りながらの改善が可能とする理論体系です。  
本講演では、これらのしくみを平易に解説するとともに、プルを考え方を内包し、かつIoT下で工程の変化を察知し、在庫を調整するだけでスループットを最大化するシンプルな方式を紹介いたします。

10:00～12:00

33 未然防止

品質とヒューマンファクター

くわの ともしき  
桑野 偲紀 氏

日本ヒューマンファクター研究所  
代表取締役所長



人間の側面「ヒューマンファクター」を科学し、品質を向上する!

製品やサービスの品質や安全を考える時には、技術的、人間的、組織的の三つの側面から統一的に、総合的に検討しなければなりません。中でも、人間の側面、すなわちヒューマンファクターを無視しては満足な製品やサービスの実現は考えられません。製品やサービスの利用・運用はもちろんのこと、設計・製造・保証・保守・管理など、あらゆる場面にヒューマンファクターが深く関係しています。さらに重要なことは、製品やサービスにおける品質や安全には、物理量とともに人間の満足度という主観量が深く関係していることです。これらのことから、「品質」と「人間」の関わりについて考察することが重要になっています。

13:30～15:30

34 AI・ビッグデータ

データ駆動型時代における  
人と品と質のマネジメント

—人工知能を活かす人間知能—

つばき ひろえ  
椿 広計 氏

情報・システム研究機構 理事  
統計数理研究所長



統計数理の第一人者が語る、人工知能(AI)を活かす“人間知能”の重要性

データとその分析、それに基づくオペレーションの最適化といった操作が自動化する時代が到来し、各国がデータサイエンティストの育成に励んでいます。日本は、人材の育成では周回遅れと言われていますが、データによる問題発見、原因究明、問題解決の標準プロセスは、人工知能を人間が使いこなす際にも有効だと考えています。先端的人工知能の知と喧伝されているような技術も、品質管理や品質工学の中でずっと使われてきた原理が進化したものに過ぎないものが多々あります。もう一度そういうものを見直したうえで、人つくりやコトつくりを考えてみたいと思います。

10:00～12:00

35 ニューノーマル

ミニッツ・クリエイティング：  
ファシリテーターと書記のありたい姿に基づく  
次世代書記スキル運用が、会議の質を左右する

いけだ ゆういち  
池田 祐一 氏

日科技連「エグゼクティブセミナー」企画委員、講師  
総合系コンサルティングファーム 経営コンサルタント



ニューノーマル時代、企業の“次の一手”創出のカギはファシリテータと書記です!

変化の激しい昨今において、多くの企業では、「いかに限られた時間で効果的に、次なる打ち手・アイデアを生み出すか」が求められています。これらを議論する場合は、やり方や頻度こそ変われども、会議であり議論と考えられます。しかし、議論を主導するファシリテーターばかりが重要視され、書記は「議事を記す」だけと認識されていないでしょうか。本講演では、今後のキーパーソンになり得る書記に焦点を当て、従来型の“メンバーの議事を記す”のではなく、次世代ともいえる“メンバーの知恵と化学反応を起こす”為のスキルについて、どのようにあるべきかについてお話いたします。

13:30～15:30

36 未然防止

「マニュアル」をナメるな!  
職場のミスの本当の原因

なかた とおる  
中田 亨 氏

中央大学  
理工学研究科 客員教授



職場のミスを撲滅させる「マニュアル」の重要性に再注目!

作業指示書やマニュアルが難解であったり不正確であると、職場でのミスやトラブルが頻発して当然です。しかし、簡明で気の利いたマニュアルは、世の中にはそれほど多くないと思います。マニュアルなど読まずに先輩から口伝で教えてもらって仕事をするという危なっかしい職場は珍しくありません。本講演では、事務や製造での現場の例を取り上げ、分かりやすく使いやすいマニュアルの作り方を解説します。  
(1) 変なマニュアルができるわけ  
(2) 早見表で手順をすっきり見える化  
(3) チェック工程は時と場所を定めよ  
(4) 現場の知恵を吸い上げる報告制度

10:00～12:00

37 未然防止

ヒューマンエラーの発生原因と  
未然防止の3Hとは

すずき せんじ  
鈴木 宣二 氏 NPO法人SDC検証審査協会 理事長

かみの けんじ  
紙野 研二 氏 NPO法人SDC検証審査協会



鈴木 氏

ヒューマンエラーを未然防止する3H!

各企業でISO9001:2015の審査を行っていますと、流出不良の原因はヒューマンエラーが大半です。このヒューマンエラー再発防止のために是正処置を講じていますが、効果が少ない企業が多く見られます。これを撲滅するには、ヒューマンエラーの発生原因を知って、対策を講じなければなりません。ヒューマンエラーの発生には作業者の性格が大きく寄与しています。このため、作業者ごとに対策が必要です。ポカミス防止のために作業者自身で考えるポカヨケがポイントです。ヒューマンエラーの未然防止策として現場で簡単に導入・実施できる3H(初めて、変更、久しぶり)を解説します。



紙野 氏

13:30～15:30

38 ISO

これならわかる!できる!  
経営成果を上げるISO 9001の読み方・使い方  
組織の潜在力を引き出す 認証にとられないISO活用論

あおき つねみち  
青木 恒享 氏

(株)テクノファ  
代表取締役



経営に役立つISOを再考察!

経営管理における入り口の整理にISO9001はとても有用なツールです。審査員視点ではなく、経営者視点でISO9001を読み解くと、経営者のみならず上級管理職にもとても貴重な視点を与えてくれるものになります。ISO研修機関で経営者として、そして講師として日々活動する中から得た知見を皆様にシェアいたします。規格要求事項の細かい文言にこだわるのではなく、経営とは何かを大局的見地から考えるきっかけになるポイントを掴んでいただきます。

2月5日(金)

2月10日(水)

2月18日(木)

10:00～12:00

39 企業ベストプラクティス

事技職場の業務改革・働き方改革から  
幸福度向上  
～事技職場の自工程完結活動～

たからだ かずひこ  
宝田 和彦 氏  
豊田鉄工(株)  
前社長



トヨタ前社長が語る「社員の幸福度」向上策!

製造工場に比較して事務所(事技職場)の仕事の工程・品質・効率などは管理者にとって見えにくい傾向があります。事技職場でも継続的な改善・業務改革をするためには、まず仕事の見える化・標準化が必要であり、本講演でその具体的取り組みについて紹介いたします。

また、これらの改善により生み出された時間は、新しい業務へのチャレンジや働き方改革、社員の人生(生き方)への時間として活用していきます。これらの活動は会社の基盤強化に寄与するだけでなく社員の幸福度向上にも繋がります。

13:30～15:30

40 経営管理技術

インダストリアルエンジニアリングの最前線

わだ まさひろ  
和田 雅弘 氏  
職業能力開発総合大学校  
品質・生産管理ユニット 教授



IEの進化と第四次産業革命サイバーフィジカルシステムにおける生産性向上!

変動を認識して対処する生産効率化—ものづくり工場では、生産量変動、加工時間変動、品種変動、納期変動、情報コミュニケーション変動、品質変動が次から次へと起こり、時間軸での変動、すなわちムラによって生産性は大きく阻害されています。

本講演では、生産変動の原因を認識し、工場生産性の定量的なモデルを導出することによって、現実的に認めざるを得ない最小限の変動の影響を理解し、生産性向上改善のための道筋を示します。さらに第四次産業革命サイバーフィジカルシステムにおける生産性向上の役割にも触れたいと考えています。

10:00～12:00

41 企業ベストプラクティス

顧客価値共創のための新たなフレームワーク  
～「くらしアップデート業」への挑戦～

うえはら ひるとし  
上原 宏敏 氏  
パナソニック(株)  
品質・環境本部 本部長



パナソニックが実践する顧客価値共創のための新機軸!

パナソニックは創業以来、事業を通じて世界中のお客様の「くらし」の向上と社会の発展に貢献することを基本理念とし、家電を中心とした大量生産のビジネスモデルを軸に事業成長を果たしてきました。ただ、近年のお客様の生活や価値観の多様化は、単に「良い商品をお届けする」という従来型のビジネスモデルからの脱却を我々に求めています。当社の掲げる「くらしアップデート」は、徹底してお客様視点に立ち、IoTやAIといった技術を駆使し、お客様一人ひとりに最適なくらしを実現する、という考え方です。この姿の実現に向けては、品質経営の推進による「価値共創」のための新たなフレームワークが必要と考えています。お客様やビジネスパートナーを含む、共創のフレームワーク構築を通じた、より良いくらし・より良い社会の実現に向けた取り組み、それを支える現場力強化への挑戦についてご紹介いたします。

13:30～15:30

42 企業ベストプラクティス

トヨタの品質経営  
～トヨタが真の「モビリティカンパニー」になるために  
必要な「品質経営」～

ささき しんいち  
佐々木 眞一 氏  
トヨタ自動車(株)  
元副社長



トヨタが、真の「モビリティカンパニー」になるために必要な「品質経営」の姿がここに!

トヨタは創業者の豊田喜一郎が日本に自動車産業をと始めた会社で、当初はお客様にご迷惑をお掛けすることも少なくありませんでした。喜一郎は自ら故障車の確認と修理に赴きお詫びをすると共に原因の分析と改善をしました。まさに品質経営を実践していたと言えます。今日お客様の価値観が大きく変化し車はお客様が価値を創出する為の手段となりました。車の良さだけではお客様の期待にお応えできません。お客様が価値を生み出すプロセスに寄り添い価値を共創することがこれからの品質経営となります。豊田章男社長がモビリティカンパニーになると宣言し新しい時代の品質経営に取組み始めました。その為に必要な新たな組織能力の獲得活動を紹介いたします。

10:00～12:00

43 経営管理技術

ものづくりマネジメント入門

なかしま けんいち  
中島 健一 氏  
早稲田大学  
社会科学総合学院 教授



withコロナ時代の不確実性を考慮したマネジメントシステムのあり方!

本講演では、モノづくりのマネジメントシステムを「管理技術(MT:Management Technology)」の側面から俯瞰するためのポイントについてお話しします。ここでは経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」の観点からシステムを捉え、様々なタイプの問題解決アプローチについてご紹介いたします。また、新型コロナウイルス感染症等による各種不確実性の影響も考慮したマネジメントシステムのあり方についても検討していきます。

本講演における各種アプローチを通じて、モノづくりの第一線担当者から、ミドルマネジメント、あるいは経営全般を統括されるような中小企業のトップマネジメントに至るまで、それぞれに共通するマネジメントの着目点が見えてきます。

13:30～15:30

44 信頼性・安全性

製品安全、リスクアセスメントのための  
R-Map入門

まつもと こうじ  
松本 浩二 氏  
製品安全コンサルタント



今、改めて考える製品安全、リスク管理に役立つR-Map!

安全をリスクの大きさと評価するという基本概念が、ISO/IEC Guide 51で世界統一されてから今年で30年になります。安全は、時代と共に変化する「許容可能なリスク」として捉えられています。

2008年品質月間テキスト「製品安全、リスク管理に役立つR-Map手法の活用」は、英語版を作成し、国際会議でも使用しましたが、消費者製品のリスクアセスメント規格ISO 10377:2013では、欧州のガイドラインと共に参考文献としてリストアップされました。国内では、経済産業省が製品事故情報の収集と分析にR-Mapを活用しています。

今回は、最新情報を盛り込んだリニューアル版としてご紹介いたします。  
※R-Map(Risk Map)手法は日科技連が開発したリスクを「見える化」する手法です。

2月26日(金)

3月5日(金)

3月12日(金)

10:00～12:00

13:30～15:30

45 ニューノーマル

日本が目指すべき社会・産業の在り方  
～Connected Industries、グローバル社会と日本の現状～

みづかみ きよし  
水上 潔 氏

ロボット革命IoTイニシアティブ協議会  
産業IoT推進統括



経営幹部必見! DX時代に日本が目指すべき姿を明快に示す!

第四次産業革命やDXは、社会や産業構造を大きく変えます。パラダイムシフトが起きます。安倍前首相の方針で創設されたロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会では、未来は自分達で創るものとして捉えて活動しています。製造業の将来像を標準化・産業セキュリティ・B2Bデータ流通・ビジネスエコシステム・経済モデルなど様々な協調領域のテーマで、国際的な議論をしてきました。その一端をご紹介します。日本が先進国として世界で果たすべき役割を一緒に考えていきませんか。

46 事業戦略

サステナビリティ・ミックス

ふじい としひこ  
藤井 敏彦 氏  
多摩大学大学院  
客員教授



大変革に対応するためのサステナビリティ・ミックスを学ぶ!

経営にサステナビリティを組み込むことの重要性は今までに無く高まっています。それはすなわち経営全般特に経営のガバナンスおよび研究開発・調達など具体的な事業活動に広くサステナビリティ重視を織り込むことです。しかしながら、多くの日本企業の取り組みは現に取り組んでいることのサステナビリティ上の意味を説明してよしとしていないでしょうか。これは有る意味での現状の肯定にとどまってしまっているとも言えます。サステナビリティを梃子とした経営の刷新には必ずしもつながりません。また、SDGsの求める諸課題の解決に十分に貢献することにも残念ながらなっていません。では、どうすればよいのか? ESG投資の動き、や廃プラスチック問題の本質的課題やサプライチェーンの人権デューデリジェンスなど具体的な課題に触れつつ、サステナビリティに導かれる新しいイノベーションやガバナンスのあり方について皆様と一緒に考えてまいりたいと思います。米中間の貿易摩擦など急速に起こりつつある地政学的は変動への対応も含めた新時代の経営を鳥瞰していただく機会にしたいと考えております。

3月19日(金)

10:00～12:00

13:30～15:30

47 レジェンド

日本のものづくり産業に求められている  
イノベーション

たなか ちあき  
田中 千秋 氏  
イノベーションオフィス田中 代表  
元 東レ(株) 代表取締役 副社長



甦れ、日本のものづくり! 元東レ副社長が語る、あるべきイノベーション像!

ものづくり産業は国力の基本であり、特に日本のように資源に乏しい国には、社会が求める価値あるものを生み出して人々の暮らしや生活を豊かにすることが求められます。日本は1990年頃には世界一のものづくり力を有していましたが、アメリカの技術革新による産業競争力強化策に引き離され、また、中国の追い上げにあって抜き去られました。学術的にも産業競争力においても、今や「失われた10年～30年」と言われる停滞状況にあります。どうして日本がこのような状況になったのかの本質的原因を究明し、どうすれば日本の産業競争力を再活性化できるかを提起したいと思います。日本を変革するためには、イノベーションが重要なのです。

48 経営管理技術

開発者の視点から捉えた市場分析活動の  
質保証とプロセス保証

～開発者の前工程と企画者の後工程をサイマル化する考え方～

まるやま かずひこ  
丸山 一彦 氏  
和光大学  
経済経営学部 経営学科 教授



開発者が知るべき、顧客の価値観と顧客の潜在ニーズとは?

2000年以降、商品企画部門が魅力的な品質要素を追求する機運が高まり、顧客の多様な価値観から深く洞察分析し、顧客の潜在ニーズ・期待効用などを顧客の価値観と関連させて、新商品コンセプトを創造するようになりました。そのため製品開発者も、顧客の価値観と顧客の潜在ニーズ・期待効用との詳しい関係の背景まで理解し、この新商品コンセプトを適切に読み解く必要性に迫られてきました。本講演では、前述の状況下で、企画者の技法を単に学べば良いというだけでなく、市場の理解の行為主体者として、製品開発者は商品企画部門のどのプロセスにどう関わっていくかの問題も浮き彫りにし、製品開発者と商品企画者が一緒に協働して、市場分析活動の質保証とプロセス保証を行うための「企画のサイマル(Simultaneous)化」の考え方を解説します。

3月26日(金)

「J-Channel」を社員教育に活用したいとお考えの方に朗報!

「大口申込割引制度」がありますので、お気軽にご相談ください。  
※ 従業員人数、期間により、固定金額で受け放題制度もご用意しています。

お問い合わせ先 TEL: 03-5378-9811 E-Mail: j-channel@juse.or.jp



「J-Channel」の撮影・配信の様子